

令和4年度（2022年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和4年8月 現在

No.	局名	市町村名	氏名	職業等	主な活動	推薦者	任期	備考
1	空知	岩見沢市	小西 泰子	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
2	空知	三笠市	赤坂 卓也	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
3	空知	栗山町	金丸 大輔	地方公務員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
4	空知	栗山町	菅野 義樹	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
5	空知	沼田町	池内 孝司	団体職員	環境整備指導等	町長	令和6年3月31日	
6	石狩	石狩市	阿岸 哲広	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
7	後志	蘭越町	黒川 利光	農業	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	新規
8	胆振	厚真町	尾谷 純司	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
9	胆振	洞爺湖町	青山 伸子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
10	日高	日高町	田中 義光	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
11	日高	新冠町	佐藤 剛	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
12	日高	浦河町	中川 貢	団体職員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
13	日高	浦河町	以西 明美	自営業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
14	日高	浦河町	西 利明	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
15	渡島	知内町	佐藤 暁樹	住職	自然観察指導	町長	令和6年3月31日	
16	渡島	知内町	笠松 悦子	農業	農産物加工販売等	町長	令和6年3月31日	
17	渡島	七飯町	田中 いずみ	会社役員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
18	渡島	八雲町	小林 石男	農業	地場産物加工直売	町長	令和6年3月31日	
19	檜山	江差町	小笠原 明彦	団体嘱託員	農村景観・農作業体験指導	土地連	令和7年3月31日	
20	檜山	上ノ国町	吉見 俊彦	無職	農村環境・景観保全活動等	土地連	令和5年3月31日	
21	檜山	厚沢部町	佐々木 俊司	会社役員	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
22	檜山	せたな町	富樫 一仁	農業	地域活動全般	土地連	令和7年3月31日	
23	上川	幌加内町	中村 雅義	農業	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
24	上川	鷹栖町	中江 正博	改良区職員	地域活動全般	土地連	令和7年3月31日	
25	上川	当麻町	小野寺 孝一	無職	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
26	上川	上川町	佐藤 績	農業	地域活動全般	土地連	令和5年3月31日	
27	上川	上川町	辰巳 明美	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
28	上川	中富良野町	久保 照美	花卉卸し販売	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
29	上川	南富良野町	岩永 かずえ	農業	農産物地産地消活動等	町長	令和5年3月31日	
30	上川	南富良野町	鷹嘴 充子	会社役員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
31	上川	南富良野町	小野 寿樹	地方公務員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	新規
32	留萌	小平町	長澤 政之	地方公務員	自然体験指導	町長	令和7年3月31日	
33	留萌	小平町	高野 幸子	農業	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
34	留萌	苫前町	高瀬 徹	改良区職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	
35	留萌	苫前町	福田 怜也	改良区職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	
36	宗谷	稚内市	菊池 工	会社員	地域活動全般	市長	令和5年3月31日	
37	宗谷	稚内市	加藤 八重子	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
38	林-ㇿ	北見市	馬淵 陽子	農業	農産物直売等	市長	令和6年3月31日	
39	林-ㇿ	北見市	黒須 倫子	農業	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
40	林-ㇿ	美幌町	午来 博	地方公務員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
41	林-ㇿ	津別町	佐野 多希子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
42	林-ㇿ	清里町	柳谷 亜紀子	農業	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
43	林-ㇿ	湧別町	久保 美恵子	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
44	林-ㇿ	興部町	仲元寺 恒平	団体職員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
45	林-ㇿ	雄武町	石井 恭子	会社員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
46	十勝	帯広市	伊藤 由紀子	酪農業	地域活動全般	市長	令和7年3月31日	
47	十勝	鹿追町	高橋 貴子	会社員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
48	十勝	本別町	岡崎 慶太	会社役員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
49	十勝	本別町	谷口 まどか	管理栄養士	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
50	釧路	厚岸町	高橋 美佐子	無職	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
51	釧路	鶴居村	服部 政人	団体職員	都市農村交流等	村長	令和7年3月31日	
52	釧路	鶴居村	水本 梨佳	酪農業	地域活動全般	村長	令和5年3月31日	
53	根室	別海町	水沼 和子	無職	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
54	根室	別海町	渡邊 広美	酪農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
55	根室	別海町	尾形 好枝	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	

令和4年度（2022年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和4年8月 現在

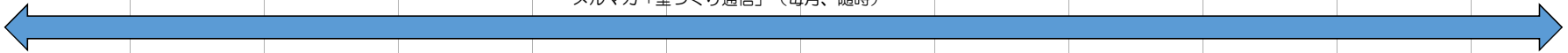
ブロック	委員（市町村）、◎会長、○副会長、△幹事、アンダーラインは女性			
道央14名	空知5名	小西 泰子 (岩見沢市)	後志1名	黒川 利光 (蘭越町)
		赤坂 卓也 (三笠市)	日高5名	△田中 義光 (日高町)
	金丸 大輔 (栗山町)	佐藤 剛 (新冠町)		
菅野 義樹 (栗山町)	中川 貢 (浦河町)			
胆振2名	池内 孝司 (沼田町)	尾谷 純司 (厚真町)	石狩1名	以西 明美 (浦河町)
	青山 伸子 (洞爺湖町)			◎阿岸 哲広 (石狩市)
道南8名	渡島4名	佐藤 暁樹 (知内町)	檜山4名	小笠原 明彦 (江差町)
		笠松 悦子 (知内町)		△吉見 俊彦 (上ノ国町)
		田中 いずみ (七飯町)		佐々木 俊司 (厚沢部町)
		○小林 石男 (八雲町)		富樫 一仁 (せたな町)
道北14名	上川8名	中村 雅義 (幌加内町)	留萌4名	長澤 政之 (小平町)
		中江 正博 (鷹栖町)		△高野 幸子 (小平町)
		△小野寺 孝一 (当麻町)		高瀬 徹 (苫前町)
		佐藤 績 (上川町)		福田 怜也 (苫前町)
		辰巳 明美 (上川町)	宗谷2名	菊池 工 (稚内市)
		久保 照美 (中富良野町)		加藤 八重子 (稚内市)
		○岩永 かずえ (南富良野町)		
		鷹嘴 充子 (南富良野町)		
		小野 寿樹 (南富良野町)		
道東18名	林-ツ8名	△馬淵 陽子 (北見市)	十勝4名	伊藤 由紀子 (帯広市)
		黒須 倫子 (北見市)		△高橋 貴子 (鹿追町)
		午来 博 (美幌町)		岡崎 慶太 (本別町)
		佐野 多希子 (津別町)		谷口 まどか (本別町)
		柳谷 亜紀子 (清里町)	釧路3名	高橋 美佐子 (厚岸町)
		久保 美恵子 (湧別町)		○服部 政人 (鶴居村)
		仲元寺 恒平 (興部町)		水本 梨佳 (鶴居村)
		石井 恭子 (雄武町)	根室3名	水沼 和子 (別海町)
				渡邊 広美 (別海町)
				尾形 好枝 (別海町)

計55名

令和4年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 事業スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会			第1回 6月10日									第2回 3月23日
委員による意見交換会	財田地区 (洞爺湖町) 4月14日								本別地区 (本別町) 12月8日		由仁地区 (栗山町) 2月16日	
指導員 関連事業		第1回 幹事会 (札幌) 5月12日		現地研修 (道北・留萌) 7月5日 ~6日		振興局・ ブロック別 会議 (道北・南富良野) 9月12日 ~13日	振興局・ ブロック別 会議 (道南・八雲) 10月19日	振興局・ ブロック別 会議 (道東・鶴居) 11月15日 ~16日	振興局・ ブロック別 会議 (道央・石狩) 12月19日 (オンライン)	全国研修 (東京) 1月23日 ~24日	地域づく り研修会 (札幌) 2月28日 (ワラワ併用)	第2回 幹事会 (札幌) 3月1日 指導員会 (札幌) 3月1日
その他												情報誌 里づくり 25号

メルマガ「里づくり通信」(毎月、随時)



令和4年度（2022年度）研修事業

1 メルマガ「里づくり通信」の発行

- (1) 発行 毎月、随時
- (2) 内容 委員会、研修事業、指導員の活動状況等について

2 第1回幹事会

- (1) 日時 令和4年5月12日（木） 13:30~14:30
- (2) 場所 かでる2.7 920会議室（オンライン併用）
- (3) 出席者 11名（うち幹事7名）
- (4) 内容 指導員委嘱状況の報告、現地研修及び振興局・ブロック別会議の開催可否と内容検討、地域づくり研修会の内容検討

3 現地研修

- (1) 道北・道東ブロック（留萌管内）
 - ア 日程 令和4年7月5日（火）～6日（水）
 - イ 場所 苫前町公民館、ゆうゆうそう
 - ウ 出席 25名（うち指導員15名）
 - エ 内容 苫前町まちづくり企画 西大志氏による講演、うすはまフーズ 岸良齊氏による講演、意見交換会
- (2) 道央・道南ブロック（渡島管内）
 - ア 日程 令和4年10月19日（水）～20日（木）
 - イ 場所 八雲町活性化施設、大関牧場
 - ウ 出席 20名（うち指導員11名）
 - エ 内容 NPO 法人やくも元気村 赤井義大氏による講演、(株) 青年舎 吉田邦夫氏による講演、現地視察（大関牧場）、田中指導員活動報告、意見交換会

4 振興局・ブロック別会議

- (1) 道北ブロック
 - ア 日程 令和4年9月12日（月）～13日（火）
 - イ 場所 南富良野保健福祉センターみなくる
 - ウ 出席 20名（うち指導員12名）
 - エ 内容 小野指導員活動報告（観光を活かしたまちづくり）、南富良野町教育委員会 大光明宏武氏による講演（イトウを核とした教育・地域振興ビジョン）
- (2) 道南ブロック
 - ア 日程 令和4年10月19日（水）
 - イ 場所 八雲町活性化施設
 - ウ 出席 12名（うち指導員5名）
 - エ 内容 各指導員からの活動報告、意見交換会、令和5年度道南ブロック別会議について
- (3) 道東ブロック
 - ア 日程 令和4年11月15日（火）～16日（水）
 - イ 場所 鶴居村管内、鶴居村役場
 - ウ 出席 15名（うち指導員9名）
 - エ 内容 管内施設現地視察、(株) むらづくり鶴居 片桐修氏による講演、各指導員からの活動報告
- (4) 道央ブロック
 - ア 日程 令和4年12月19日（月）
 - イ 場所 オンライン開催

ウ 出席 17名（うち指導員7名）

エ 内容 指導員等PRリレー、NPO法人 ezorock 草野竹史氏による講演（集落の維持・活性化に向けた考え方と具体的な手法について）、小西指導員活動報告、質疑応答、意見交換

5 第2回幹事会

(1) 日程 令和5年3月1日（水）

(2) 内容 次期幹事の選任、令和5年度各研修の日程等の検討

6 地域づくり研修会

(1) 日程 令和5年2月28日（火）13:30~16:00

(2) 場所 TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前5階 ホール5G（オンライン併用）

(3) 出席 41名

(4) 内容

第1部講演 苫前町まちづくり企画 西大志氏による講演

第2部パネルディスカッション

コーディネーター 北海道大学大学院准教授 小林国之氏

パネリスト 苫前町まちづくり企画 西大志氏

ほんべつ豆まかナイト実行委員会 尾崎将寛氏

農猿 城地真吾氏

7 指導員会

(1) 日程 令和5年3月1日（水）10:30~12:00

(2) 場所 かでる2.7 730会議室

(3) 内容 地域づくり研修会の振り返り

令和5年度研修計画及び指導員会幹事会の体制について

8 全国研修会

(1) 日程 令和5年1月23日（月）~24日（火）

(2) 場所 砂防会館別館1階 淀・信濃、木曾

(3) 出席 8名（うち指導員5名）

(3) 内容 農業・農村の多目的機能の持続的発揮に向けたシンポジウム
多目的機能支払活動の効率的・効果的展開に向けた全国研修会

9 情報誌「里づくり」25号

(1) 発行 令和5年3月予定

(2) 部数 2,000部

(3) 内容 リレーインタビュー（さるくる 横山代表ほか）

指導員活動報告（柳谷指導員）

新規委嘱者紹介等

(別紙様式)

中山間ふるさと・水と土保全対策事業 中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事業実施計画(案)

計画期間：令和2年度～令和6年度

(令和5年度)

計 画 内 容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

北海道

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	<p>本道の農村は、農家戸数の減少や高齢化の進行などが続いており、コミュニティ機能が脆弱化し、地域の活力の低下が顕在化している。特に、中山間地域においては、農地の立地条件が悪く、生活環境等の定住条件にも恵まれないため、過疎化・高齢化が進み、担い手への農地集積が進まず遊休農地が増加するなど、農業生産活動の停滞はもとより、地域のコミュニティ機能や農業・農村の多面的機能の発揮に支障を来している状況にある。</p> <p>このため道では、農地や土地改良施設、自然環境、景観など地域の多様な資源を活かして、生態系の保全整備や都市との交流、地域の特色ある料理の開発など様々な活動を促進してきたが、地域住民が主体性を持ち持続的に活動に取り組む地域の確立に向けて気運の醸成とモデル的な活動事例の創出が必要である。</p>
事業実施の基本方針	<p>本事業では、農地や土地改良施設、自然環境、景観、伝統文化などの多様な資源を発掘し、これら資源を地域住民が主体性を持って活かした多様な活動をモデル的に実施することでその効果を検証する。</p> <p>具体的な方法としては、地域の現状把握や住民意識の醸成、明確な目標を設定した3年程度の活動計画の策定、計画に基づいた実践活動、活動の評価・検証などの地域住民による主体的な取組を支援することにより、住民の自立意識を醸成し、継続性を持った効果的な住民活動が実施されるよう促す。</p> <p>また、こうした住民活動を全道に広げるとともに、地域の様々な資源を活用した多様な住民活動を実践・指導する人材として、ふるさと・水と土指導員を委嘱し、現地見学や研修会等の意見交換の場を通して、住民活動の手法や活動意欲をこれまで以上に高め、今後の地域づくりを担う人材として、その育成に努める。</p> <p>全道各地で住民活動の活性化を図る観点から、HPや情報誌の発行などを通して、本事業における取り組みとその成果を全道に普及する。</p>
事業実施計画	<p>全道各地で地域の多様な資源を活かし住民活動が発展・継続することにより、中山間地域におけるコミュニティ機能を維持し、地域再生や地域活性化を図る。ひいては、農業・農村の有する多面的機能を良好に発揮することを目指す。</p>

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業（量）内容					総事業費
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
地域活動支援事業	道内における地域住民活動の活性化を図るため、他の地区のモデルとなるような多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区をモデル的に支援することでその効果を検証する。	①	ふる水第3-2-(1) 棚田第3-2-(1) 第3-2-(2)	地域の現状を把握し、住民の地域づくりへの意欲を醸成するため、住民の意識調査やアドバイザーを招いた勉強会などの開催、その後の地域住民活動の目標と具体的な活動内容等を定めた3年程度の活動計画の策定、計画に基づく実践活動、活動のステップアップを図るための評価・検証など地域住民が主体となった取組の支援を5ヶ年で10地区程度実施する。					
人材育成	活動の実践と地域住民活動の活性化に向けた指導・助言等を行う人材として、北海道ふるさと・水と土指導員を育成する。	②	ふる水第3-2-(2) 棚田第3-2-(1) 第3-2-(2)	多様な地域住民活動を実践・指導する人材として北海道ふるさと・水と土指導員を委嘱し、指導員相互の情報交換と地域づくりの手法等習得のための研修会や現地研修会を5ヶ年で20回程度開催する。 また、地域住民活動の活性化を図る地域をさらに広げるため、5ヶ年で10人程度新たに指導員を委嘱する。					
推進事業	事業の円滑な執行と効果的な推進、地域住民活動の拡大を図る取組を行う。	③	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(1) 第3-2-(2)	事業の進捗状況に応じた効果的な助言を得て、事業の推進を図っていくため、5ヶ年で10回程度委員会を開催する。 また、事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、市町村や各種活動団体に対し、5ヶ年で10回程度、独自の情報誌を発行するほか、適宜事業の制度説明や活動事例の提供を行う。					
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
中山間ふるさと・水と土保全対策事業費（ふる水と土基金）			計画事業費 (実績額)	13,630 3,647	13,618 3,480	13,701	13,701		
中山間ふるさと・水と土保全推進事業費（棚田基金）			計画事業費 (実績額)	780 780	782 782	699	699		

3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度	
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
①	地域活動支援事業	多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区数	10地区	2地区	1地区	0地区				
②	人材育成	指導員等の資質向上のための研修会等の開催数	20回	2回	2回	5回				
		指導員の委嘱人数	10人	4人	7人	2人				
③	推進事業	事業の推進に係る効果的な助言を得るための委員会の開催数	10回	2回	2回	2回				
		情報誌の発行回数	10回	2回	1回	1回				

4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考	
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針		
①	地域活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き新規地区の掘り起こしに努めること。 新型コロナウイルス感染症の影響により計画どおりに活動できていない継続地区においても状況の把握に努め、活動内容の変更など適宜対応すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 機会あるごとに事業の説明を行い、地域の多様な資源を活かした地域住民による主体的な取組を支援できるよう努める。 支援地区において新型コロナウイルス感染症の影響により計画どおりに活動が進まない場合など、計画の進捗を適宜把握し、当該年度計画の活動内容の見直しなど柔軟に対応する。 	
②	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、予定していた研修を概ね開催はすることはできている。引き続き感染対策を徹底した上、人材育成に効果的な研修のテーマなどを検討すること。 指導員の委嘱は今後も幅広い人材発掘に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会等は引き続き必要に応じオンラインも併用し、研修機会を確保するよう努める。研修のテーマについてはふる水事業の推進に効果的なテーマ、議題、講師などを考慮し、開催する。 指導員委嘱については関係機関とも連携の上、現地研修会時に直接説明するなど、積極的に人材の発掘に努める。 	
③	推進事業	<ul style="list-style-type: none"> おおむね計画どおり実施されている。今後も事業のPRに努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、情報誌発行のほか、事業の制度説明や活動事例の提供を随時行う。 	

令和5年度（2023年度）
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業計画(案)

1 地域活動支援事業

- (1) 実践活動地区（3地区、括弧は年次）
本別町本別地区（3）、オホーツク広域地区（3）、洞爺湖町財田地区（2）
- (2) 住民意識醸成地区
新規地区（2地区程度を掘り起こし）

2 研修事業

- (1) 指導員の委嘱（随時）
- (2) 全国研修（未定）
- (3) 地域づくり研修会（2月中旬 札幌市）
- (4) 現地研修（道央・胆振 8月）
（道東・根室 10月）
- (5) 北海道ふるさと・水と土指導員会幹事会（5月中旬、2月中旬 札幌市）
- (6) 北海道ふるさと・水と土指導員会（2月中旬 札幌市）
- (7) 振興局・ブロック別会議（道央・胆振（現地研修と同時開催））
（道南・檜山 11月）
（道北・上川 7月下旬～8月上旬）
（道東・根室（現地研修と同時開催））
- (8) 情報誌「里づくり」の発行 2回（8月、2月）
- (9) メルマガ「里づくり通信」の配信 毎月

3 推進事業

- (1) 委員会の開催 2回（6月、3月）
- (2) 活動地区との意見交換
（オホーツク広域地区、本別地区）
- (3) ホームページの更新
 - ① 指導員プロフィール
 - ② 事業紹介、委員会記録及び活動実績等の情報
- (4) 啓発普及
「新・田舎人」（116～119号）の配布

地域活動支援事業

令和5年度（2023年度）活動計画

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	活動地区名	オホーツク広域	活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議		
活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・活動企画団体間の意見交換、情報交換を通じ、人材交流を図るとともに担当者の企画運営力のスキルアップをめざす。 ・各地域の個性や特性を活かして取り組んでいる活動企画団体の各種事業を有機的に構成し、旅行者に提供する体制を整え、オホーツク地域圏での長期滞在者増加を促進する。 ・地域間の連携を深め、地域住民の参加や協力を得ながら、体験型観光の広域的な受入体制及び教育旅行の広域的な受入体制を構築し、新たな集客を図り地域の活性化を図る。 						
活動の方向	No	活動の目的	活動の内容	目標(数量・定性)			
	①	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携の必要性、優位性についての意思統一 ・各団体間の協力体制の強化 ・広域連携による具体的な仕組み、商品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携会議の運営、幹事会・部会の開催 ・各団体の取組みを知り広域連携体制の構築を図る ・地域住民の協力拡大に向けた研修会等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・幹事会、部会開催回数 年4回 ・各団体を訪問する現地研修会開催回数 年1回 ・地域住民対象の研修会回数 年1回 			
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド、FITに対応した広域連携による農山漁村活用型の体験コンテンツ造成とガイド人材の育成 ・教育旅行に対応した体験型コンテンツ造成及び異業種連携による受入体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド、FIT対応型広域連携による体験コンテンツツアーの試験実施 ・ガイド育成、ガイドレベル向上を図る講習会等の開催 ・教育旅行における体験型コンテンツの試験実施 ・異業種間連携の意識醸成を図るセミナーの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型コンテンツモニターツアー実施(インバウンド、FIT、教育旅行) 年2回 ・ガイド育成講習会の開催 年2回 ・異業種間連携強化のためのセミナー開催 年1回 			
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・管内広域連携による教育旅行受入体制の拡大 ・教育旅行受入体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験時に必要な長靴、ツナギ服を確保し、受入体制の充実を図る ・先進事例を学ぶ研修会等を開催し、受入農家の拡大と推進態勢の強化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入地域の拡大 2団体 → 5団体 ・地域間連携による教育旅行受入実施 			
3年間の活動プロセス	関連No	令和4年度		令和4年度(変更)		令和5年度	
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額
	①	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体を訪問する現地研修会(1回) ・地域住民参加型の研修会開催(1回)(小計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・16千円 ・56千円 (72千円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体を訪問する現地研修会(1回) ・地域住民参加型の研修会開催(1回)(小計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・0円 ・0円 (0円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体を訪問する現地研修会(1回) ・地域住民参加型の研修会開催(1回)(小計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・16千円 ・56千円 (72千円)
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・野鳥ガイド育成講習会(5回) ・広域野鳥観察モニターツアー(2回) ・ツアーパンフレット作成 ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会(1回) ・教育旅行ニーズ調査(1回)(小計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・40千円 ・160千円 ・100千円 ・110千円 ・110千円 (520千円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野鳥ガイド育成講習会(2回) ・広域野鳥観察モニターツアー(2回) ・ツアーパンフレット作成 ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会(1回) ・教育旅行ニーズ調査(1回) ・スコープ用三脚(小計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・11,660円 ・195,309円 ・0円 ・29,800円 ・110,000円 ・36,300円 (383,069円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行ニーズ調査(1回) ・体験型コンテンツモニターツアー開催(連携機関のガイドが造成したコンテンツ) ・体験型コンテンツエリアマップ作成(小計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・75千円 ・340千円 ・160千円 (575千円)
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入用長靴(26足) ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会(1回) ・教育旅行ニーズ調査(1回) ・教育旅行推進研修会(1回) ・教育旅行モニターツアー(バス借上料)(小計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・58千円 ・110千円 ・110千円 ・102千円 ・140千円 (520千円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入用長靴(0足) ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会(1回) ・教育旅行ニーズ調査(1回) ・教育旅行推進研修会(1回) ・教育旅行モニターツアー(バス借上料)(小計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・0円 ・29,800円 ・110,000円 ・137,409円 ・0円 (277,209円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行ニーズ調査(1回) ・教育旅行推進研修会(1回) ・教育旅行誘客推進意見交換会(1回) ・教育旅行モニターツアー(バス借上料・2回)(小計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・75千円 ・119千円 ・112千円 ・210千円 (516千円)
合計		1,112千円		623,978円		1,163千円	
活動団体構成員 ※各協議会の構成員は別紙のとおり	美幌町	美幌町地域おこし協力隊(個人)	(株)TAISHI(道の駅ぐるっとパノラマ美幌峠)	小清水町観光協会			
	オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会(※)		津別町役場	大空町有機農業推進協議会			
	北見市農泊推進協議会(※)	滝上町観光協会					
関係機関・団体	農林水産省北海道農政事務所北見	国土交通省北海道運輸局北見運輸支局					
連携・協力機関・団体	株式会社農協観光北見支店						

令和5年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	活動地区名	オホーツク広域	
活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議			
関連No.	内容	項目(費目)	金額(円)	積算根拠
①	・各団体訪問、現地研修会開催	11_役務費	16,000	(体験料)@1,600円×10名
		07_報償費	26,000	(講演料)@13,000円/時×2時間×1回
	・地域住民参加型研修会開催	08_旅費	25,000	(道内1泊2日)@25,000円/回×1回
		13_使用料及び貸借料	5,000	(会場使用料)@5,000円/回×1回
小計			72,000	
②	・教育旅行ニーズ調査	11_役務費	75,000	@150,000円×1回/2部会折半
		08_旅費	60,000	(道内1泊2日)@30,000円×1回×2名
	・体験コンテンツモニターツアー開催	10_需用費	80,000	ワイヤレスガイドシステム
		10_需用費	110,000	双眼鏡
	13_使用料及び貸借料	10,000	(会場使用料)@5,000円/回×2回	
	13_使用料及び貸借料	80,000	(バス代)@80,000円/回×1回	
・体験コンテンツエリアマップ作	12_委託料	160,000	デザイナー委託料、印刷費	
小計			575,000	
③	・教育旅行ニーズ調査	11_役務費	75,000	@150,000円×1回/2部会折半
		07_報償費	44,200	(講演料)@13,000円/時×1.7時間×2名×1回
	・教育旅行推進研修会(1回)	08_旅費	54,000	(道内1泊2日)@27,000円×2名×1回
		10_需用費	20,240	牛乳:@71円×80個+含蜜糖:@182円×80袋
	・教育旅行誘客推進意見交換会(1回)	07_報償費	52,000	(講演料)@13,000円/時×4時間×1名×1回
		08_旅費	60,000	招聘専門家旅費交通、宿泊費(2泊3日 @60,000円×1名)
・教育旅行モニターツアーバス借上料(2回)	13_使用料及び貸借料	210,000	@35,000円/1台×2台×3日	
小計			515,440	
合計			1,162,440	
費目計		07_報償費	122,200	
		08_旅費	199,000	
		10_需用費	210,240	
		11_役務費	166,000	
		12_委託料	160,000	
		13_使用料及び貸借料	305,000	

別記様式第2号

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町	活動地区名	本別地区	活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ		
活動の目標		各種団体に属さず地域活動に参加できていなかった住民同士の繋がりを創出し、コミュニティを形成する。そこから老若男女を問わず皆で地域における課題を抽出し、解決に向けた具体的な行動を起こし、住民一丸となって地域の活性化と未来に向けた持続可能なまちづくりを目指す。					
活動の方向	No.	活動の目的	活動の内容		目標（数量・定性）		
	①	住民同士の繋がりを創出し、地域における連携、協力体制を強化する。住民主体の持続可能なまちづくりに向け意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ほんべつ☆うきうき未来らぼミーティング ◆住民主体のまちづくりに向けた研修会 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ミーティング開催（6回/年） ◆まちづくり研修会開催（1回/年） ◆幅広い地域住民の参加と意識の共有（随時） ◆先進地視察による勉強会の実施（1回/年） 		
	②	関係人口の増加や移住者等とのコミュニティを形成し、都市と地域や地域内での交流を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆体験イベントをもとに町内外の方との交流を深める。 ◆移住されてきた方等を紹介カードにて発信し地域内での活動を紹介、応援する。 ◆新たな発想で町内スポットを巡礼地化し、発信・集客を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆移住者交流イベントの開催（1回/年） ◆イベント用ユニフォームの製作（1回/年） ◆紹介カード作成・配布（3名/年） ◆何かの巡礼地化を検討し、スポット探し・発信を行う（1回/3年） 		
	③	新たな観光資源を発掘・発信することによって町内の魅力を多くの方々に知ってもらう。	<ul style="list-style-type: none"> ◆町内の自然を生かした様々なアクティビティーの検討開発 ◆発掘したアクティビティーの体験会の開催 ◆実証に向けた体制の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ◆先進地視察、各アクティビティー専門家の講演（1回/年） ◆発掘アクティビティーの体験会の開催（1回/年） 		
	④	子供たちと本別だから出来る事の体験活動や地域学習を通して郷土愛を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ◆子供たちが町を一度離れても戻ってきたいと思ってもらえるような活動をする。 ◆特産物での食育体験や屋外活動体験 		<ul style="list-style-type: none"> ◆地元産食材（豆・小麦など）を使用した食育体験・メニュー開発（1回/年） ◆屋内外スポーツ体験等の実施（1回/年） 		
	⑤	地元食材のアピールや町民・学生と連携したフードロス対策への取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ◆地元産食材を活用した調味料（万能タレ）の試作・開発 ◆試食会・アンケート収集により地域での『このみ』の調査 ◆地域食材の可能性のリサーチ、食育推進計画作成検討 		<ul style="list-style-type: none"> ◆試作品開発会の実施（3回/年） ◆試作品試食会・広報・アンケートの実施（1回/年） ◆食育推進計画作成の検討会議の実施（2回/年） 		
	⑥	各活動の情報発信を行うことによって町内外への認知度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆各活動担当者からの活動報告をSNS等にて発信する。 ◆情報収集により各活動担当者への情報提供を行う。 ◆クリエイター等と協力して幅広い発信にてアピールする。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆チラシ・SNS等への掲載・アップロード（随時） ◆町内外の様々な情報の収集・情報提供（随時） ◆アートを活用しての発信の検討会実施（1回/年） 		
3年間の活動プロセス	関連No.	令和4年度		令和4年度（変更）		令和5年度	
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額
	①	全体ミーティング	0千円	全体ミーティング	0千円	全体ミーティング	0千円
	①	まちづくり研修会	58千円	まちづくり研修会	27千円	まちづくり研修会	58千円
	①	先進地視察	356千円	先進地視察	0千円	ユニフォーム制作	210千円
	②	街コンイベント	130千円	街コンイベント	0千円	交流イベント開催	70千円
	②						
	②	紹介カード作成	30千円	紹介カード作成	0千円	紹介カード作成	270千円
	③					講演・体験会	104千円
	③	アクティビティー体験会	160千円	アクティビティー体験会	68千円	川のごみ拾い	48千円
	④	食育体験	86千円	食育体験	24千円	食育体験	60千円
	④	講演会	36千円	講演会	29千円	ワークショップ体験	20千円
	④	企業見学	26千円	企業見学	0千円	写真・イラスト展	30千円
	④	写真展	30千円	写真展	0千円	食育メニューレシピ集制作	50千円
	⑤	試作品開発	120千円	試作品開発	11千円	試作品開発	100千円
	⑤	試作品試食会	30千円	試作品試食会	0千円	試作品試食会	50千円
	⑤	食育推進計画検討会議	0千円	食育推進計画検討会議	0千円	食育推進計画検討会議	
⑥	広報チラシ	180千円	広報チラシ	0千円	広報チラシ	140千円	
⑥	アート活用検討会	0千円	アート活用検討会	0千円			
	合計		1,242千円		159千円		1,210千円
関係機関・団体	本別町役場						
連携・協力機関・団体	本別町観光協会		本別町農業協同組合・青年部・女性部		道立農業大学校		
	本別町商工会・青年部・女性部						

別記様式第3号

令和5年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 地域活動支援事業実施計画

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町		活動地区名	本別地区	
活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ				
関連No.	内容	項目(費目)	金額(円)	積算根拠	
	まちづくり研修会、 全体ミーティング イベント用ユニフォーム作成	07_報償費	28,000	14,000円×2時間	
		08_旅費	30,000	札幌～本別 1泊2日	
		10_需用費	210,000	3,500円×60枚	
小計			268,000		
②	交流人口イベント開催 紹介カード作成	10_需用費	60,000	A1ポスター1500円×30枚	
		13_使用料及び賃借料	10,000	音響スピーカー等1式	
		10_需用費	270,000	配布カード300円×900枚	
小計			340,000		
③	フライフィッシング講演・体験会	07_報償費	26,000	13,000円×2時間	
		08_旅費	6,000	更別～本別	
		13_使用料及び賃借料	32,000	カヌー等の使用料	
	デイキャンプ体験会	10_需用費	40,000	材料費等	
川のごみ拾い	10_需用費	48,000	ウェダー8000円×6		
小計			152,000		
④	食育体験	07_報償費	40,000	5,000円×2時間×4回	
		10_需用費	15,000	材料費等	
		08_旅費	5,000	旅費	
	職場体験(ピザ作り)	10_需用費	20,000	材料費等	
	写真イラスト展	10_需用費	30,000	印刷代	
食育メニューレシピ集	10_需用費	50,000	50冊×1000円		
小計			160,000		
⑤	試作品開発	10_需用費	90,000	材料費等	
		13_使用料及び賃借料	10,000	会場費	
	試作品試食会	10_需用費	40,000	材料費等	
		13_使用料及び賃借料	10,000	会場費	
小計			150,000		
⑥	広報チラシ	10_需用費	100,000	印刷代	
		11_役務費	40,000	折込代	
小計			140,000		
合計					
		07_報償費	94,000		
		08_旅費	41,000		
		10_需用費	973,000		
		11_役務費	40,000		
		12_委託費	0		
		13_使用料及び賃借料	62,000		
			1,210,000		

市町村名		洞爺湖町		活動地区名		財田地区		活動団体名		財田米ブランド推進委員会		
活動の目標		当地区で生産されている財田米について学ぶ機会を設け、近隣地域住民や子供たちの地域産業に対する理解の醸成を図る。また、先人たちが築き上げてきた「財田米」への誇りや愛着を育むことで生産者の意欲向上と集落機能の維持につなげる。 財田米の付加価値向上に向けた取組とPR活動を行い、認知度及び地域ブランド力の向上や顧客満足度の上昇、洞爺湖町への観光客の入り込み増を目指し、地域の活性化につなげる。										
活動の方向	No	活動の目的				活動の内容				目標(数量・定性)		
	①	・財田米の啓蒙活動による付加価値向上への取り組み ・財田米の地産地消への取り組み				・HP、ポスター、パンフレット等活用によるPR ・プロモーションビデオの製作 ・地元女性を講師に財田米に合う惣菜(おかず、ご飯のお供)研修会開催と消費者へのメニュー配布				・HPの開設、SNSの更新(随時) ・ポスター作成 必要に応じて計上 ・パンフレット、ステッカー作成 必要に応じて計上 ・財田米に合う料理研修会開催 1回/年		
	②	子供から大人までを対象とした食育の展開による地産地消活動を推進し、財田米に対する理解の醸成を図る				・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)				・体験学習 2回/年		
	③	財田米の安定販売に向けた認知度向上への取り組み				・都市部での認知度向上のためのPR活動 ・地域イベント(洞爺湖マラソン、大収穫祭等)を活用した試食会等の開催				・都市部での認知度向上のためのPR事業 1回/年 ・試食会の開催 2回/年		
3年間の活動プロセス	関連No	令和4年度				令和4年度(変更)				令和5年度		
		内容		予算額		内容		予算額		内容		予算額
	①	・HPの開設 ・ポスター、パンフレット、ステッカー等作成		980千円		・HPの開設 ・ポスター、パンフレット、ステッカー等作成		1,000千円		・パンフレット、ステッカー等増刷 ・地元女性を講師に財田米に合う惣菜等の研修会開催		・380千円 ・50千円 ・10千円
	②	・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)		20千円		・地元小学生を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)		0円		・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)		0円
③					・都市部での認知度向上のためのPR活動(※農業農村ふれあいフェスタin赤れんが)		0円		・都市部での認知度向上のためのPR活動 ・地域イベントを活用した試食会等の開催(洞爺湖マラソン、ツーデーマーチ、収穫祭etc)		・260千円 ・300千円	
関係機関・団体		洞爺湖町役場		胆振農業改良普及センター		洞爺湖町教育委員会		洞爺湖町観光協会				
連携・協力機関・団体		とうや湖農業協同組合										

令和5年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町	活動地区名	財田地区	
活動団体名	財田米ブランド推進委員会			
関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠
①	<ul style="list-style-type: none"> 財田米PRに向けたパンフレット、ステッカー等の作成 財田米に合う惣菜(おかず、ご飯のお供)研修会開催 	11_役務費	80,000	PR用ステッカー印刷代(1枚単価8円×10,000枚)
		11_役務費	300,000	PR用パンフレット印刷代(1枚単価10円×30,000枚)
		10_需用費	50,000	研修会用の財田米買い上げ費用(ゆめぴりか4,000円/10kg×5袋)、総菜用の材料費(30,000円計上)
		07_報償費	10,000	講師1名分 1日10,000円
③	<ul style="list-style-type: none"> 地域イベントを活用した試食ブースの設置 	10_需用費	90,000	イベント用の財田米買い上げ費用 2回分(ゆめぴりか4,000円/10kg×6袋、 ななつぼし3,500円/10kg×6袋)×2回
		10_需用費	170,000	法被(8,000円×5着)・ のぼり(6,500円×20本) の作成費用
③	都市部での認知度向上のためのPR活動	11_役務費	300,000	PR用パンフレット印刷代(1枚単価10円×30,000枚)
合計			1,000,000	
費目計		07_報償費	10,000	
		08_旅費	0	
		10_需用費	310,000	
		11_役務費	680,000	
		12_委託料	0	
		13_使用料及び貸借料	0	

令和4年度

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業に係る
点検・評価報告書（案）

北海道農政部農村振興局農村設計課

I 点検・評価について

1 点検・評価の対象地区

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業の地域活動支援事業の実施地区のうち、令和4年度に事業を完了した由仁町由仁地区。

2 点検・評価の方法

事業実施地区を訪問し、事業の進捗状況の確認や関係者へのアドバイスを行っている北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会委員からの意見や、毎年度の活動終了時に行う活動の評価・検証結果を基に道が評価した。

3 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会委員

所 属	職 名	氏 名	備 考
NPO 法人北海道食の自給ネットワーク	事務局長	大熊 久美子	
フードライター		小西 由稀	
北海道大学大学院農学研究院	准教授	小林 国之	
北海道土地改良事業団体連合会	技術監	中山 篤史	
北海道大学大学院農学研究院	准教授	山本 忠男	座長

(氏名五十音順)

Ⅲ 由仁町由仁地区に係る評価について

1 由仁地区の活動内容について

(1) 地域及び活動団体の概要

本地区の由仁町は、北海道の中央部、空知総合振興局管内の最南端に位置する、明治25年に戸長役場が設置され誕生した、面積133.74km²、人口4,871人、世帯数2,380戸（令和4年1月1日現在・住民基本台帳）の町である。町名は由来は、アイヌ語の「ユウンニ」（温泉があるところの意味）がなまったものといわれている。

北と東には夕張川をはさんで夕張市と栗山町、南は千歳市、安平町、厚真町、西は馬追山を境に長沼町に接している。町域は、東西が約8km、南北約32kmと細長く、標高は最高が506.6m、最低が24.7mで全体としては起伏が少なく、肥沃な土地が広がり農業に適している。気候は内陸のため寒暖の差はあるが、積雪は少なく温暖である。

基幹産業は農業であり、総農家数337戸、耕地面積5,850ha、稲作、畑作、園芸を主体とする農業地帯である。近年はハーブなどの観光資源にも力を入れており、国内最大級を誇る英国風庭園「ゆにガーデン」が観光名所となっている。

本地区は、平成24年、普及センターが若手農業女性を対象に開催した農村セミナーの参加女性から、「町外から嫁に来たばかりで町内に知人が少ないため、農家の友人を作り情報交換したい。」「地域や農業のことがわからず不安なので、もっと知りたい。」などの意見があったことから、平成25年3月に若手女性農業者の会を設立した。

会の目的は、「①仲間作り」、「②地域や農業について知ること」、「③②の成果により地域に貢献すること」で、対象者は由仁町内の40歳以下の農業女性とし、年齢制限を設けることでメンバーの流動化を図っている。

会名の『WEAVE』は、「編む」、「織る」などの意味で、女性らしく丁寧に活動をしたいという思いが込められている。

この会の活動を促進することにより、高齢者などが蓄積している食に関する伝統技術を継承し、イベントなどを通じて町内外の活発な交流を進めることで、『WEAVE』のメンバーを含め多くの人たちが地域の魅力を再発見し、コミュニティが元気になり、生き活きと農村生活を送ることを目的としている。また、乾燥野菜の販売などを通じて、『WEAVE』の持続化を図り、メンバーの生きがいの創造を進め、このような仲間の拡大を促進することで、由仁町全体の魅力と地域力の向上を図るものである。

(2) 活動の推移

活動事項	年度	活動状況
学習・グループ活動事業	30	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>札幌地下歩行空間において野菜直売及び乾燥野菜販売活動（8月）参加者数：8名</u> ・ <u>地域作りと乾燥野菜の製造販売をテーマにした先進地視察研修「カントリーパパ」、「すずきっちゃん」（11月）参加者数：12名</u> ・ <u>農薬についての勉強会・グループの活動方針についてのワークショップ（12月）参加者数：12名</u> ・ <u>味噌加工実習（2月）参加者数：7名</u>
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>札幌地下歩行空間において野菜直売及び乾燥野菜販売活動（7月）参加者数：10名</u> ・ <u>札幌地下歩行空間において野菜直売及び乾燥野菜販売活動（9月）参加者数：6名</u> ・ <u>野菜に関する情勢調査、野菜の販売、農業生産工程管理をテーマにした先進地視察研修「札幌みらい中央青果（株）」、「AmbitiousFarm（株）」、「江別製粉（株）」（11月）参加者数：10名</u> ・ <u>乾燥野菜製造に係るHACCP勉強会（6月）参加者数：6名</u> ・ <u>味噌加工実習（2月）参加者数：7名</u>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>スマート農業機器操作体験研修会（10月）参加者数：9名</u>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>有機農業についての勉強会（5月）参加人数：6名</u> ・ <u>野菜の保存方法についての勉強会（6月）参加人数：8名</u> ・ <u>「（有）大塚ファーム（新篠津村）」、「YUMEYASA I（石狩市）」視察研修（11月）参加人数：6名</u>
	30	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>乾燥野菜の製造・販売（8～9月）参加者数：14名</u> ・ <u>「食のブランド・ステップアップ相談会 in 空知」に参加（10月）参加者数：2名</u> ・ <u>乾燥野菜を使ったスープの販売会（10月）参加者数：約</u>
乾燥野菜加工販売事業	30	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>乾燥野菜の製造・販売（8～9月）参加者数：14名</u> ・ <u>「食のブランド・ステップアップ相談会 in 空知」に参加（10月）参加者数：2名</u> ・ <u>乾燥野菜を使ったスープの販売会（10月）参加者数：約</u>

		<u>50名</u>
	1	・ <u>乾燥野菜の製造・販売（8～9月）参加者数：13名</u>
	3	・ <u>作業の効率化、商品の改善についてのワークショップ（3月）参加者数：5名</u> ・ <u>乾燥野菜の販売・サンプル配布（8月）参加者数：4名</u>
	4	・ <u>乾燥野菜の製造・販売（8月）参加人数：10名</u>
交流事業	30	・ <u>ハロウィンカーニバル(10月)参加人数：120名</u>
	1	・ <u>消費者団体アグリション 21 視察交流会(6月)参加者数：24名</u> ・ <u>クリスマスパーティー（12月）参加者数：約100名</u>
	2	・ <u>野菜の直売活動（町内）（9月）参加者数5名</u>
	3	・ <u>野菜の直売活動（町内）（7月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（8月）参加者数：5名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（9月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（江別）（8月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（千歳）（7月）参加者数：2名</u> ・ <u>野菜の直売活動（千歳）（9月）参加者数：2名</u>
	4	・ <u>「農猿（南幌町）」と交流会（4月）参加人数：9名</u> ・ <u>町内若手女性農業者とのランチ交流会（4、5、6月）参加人数：計21名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（7月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（8月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（9月）参加者数：2名</u> ・ <u>クリスマスパーティー（12月）参加人数：162名</u>

注) 下線は、北海道中山間ふるさと水と土保全対策事業より対応

【活動状況写真】

平成 30 年度

○札幌市チカホでの直売イベント「クラシェ」の販売の様子



来客多数で野菜は完売した。由仁町のパンフレットとうちわを配布した。

○先進地視察研修でカントリーパパ、すずきっちゃんを訪問

<カントリーパパ>



地域の魅力向上やレストランの取組について研修した。

<すずきっちゃん>



乾燥野菜の製造方法、加工施設について学んだ。

○味噌造り実習



地域の味噌製造農家を講師に味噌造りについて実習した。

○ハロウィンカーニバル



多数の親子連れが参加、ゲームイベントを実施し、乾燥野菜のカレーやかぼちゃスープを振る舞った。

○勉強会・活動内容検討のワークショップ



農薬の使用方法についての勉強会の後、活動内容について検討するワークショップを行った。

令和元年度

○札幌市地下歩行空間での直売イベント「北の恵み愛食フェア」に出店



来客多数で野菜は完売した。由仁町のパンフレットとうちわを配布した。

○先進地視察研修で札幌中央卸売市場、Ambitious Farm、江別製粉を訪問

<札幌中央卸売市場(札幌みらい中央青果)>



卸売市場のしくみや役割、求められる野菜について研修した。

<Ambitious Farm>



野菜直売の取り組み、GAPの導入とその効果について学んだ。

○味噌造り実習



地域の味噌製造農家を講師に味噌造りについて実習した。

○クリスマスパーティー



多数の親子連れが参加、ゲームやイベントを実施したほか、乾燥野菜を利用したスープ、炊き込みみご飯の販売も行った。

○HACCP 勉強会



HACCP の考え方を取り入れた衛生管理を学び、乾燥野菜製造マニュアルの修正点について検討するワークショップを行った。

令和2年度

○由仁町「牛小屋のアイス」で野菜直売を実施



来客多数で用意した野菜はほぼ完売した。

令和3年度

○学習・グループ活動事業

- ・スマート農業機器操作体験研修会



ヤンマーアグリジャパン(株)を講師に、自動運転トラクター、自動操舵田植え機等の操作体験研修を行った。

○乾燥野菜の加工販売事業



ワークショップを行い、作業の問題点や効率化について検討した。作業効率化のため、それまで4種類製造していた乾燥野菜の品目数を「スープ用」のみに絞った。

○交流事業

- ・町内外での野菜直売の実施



コロナ禍で札幌での販売が難しくなったため、地元販売先を開拓し、直売を行った。直売は、「セブンイレブン駐車場」、「牛小屋のアイス」、「江別市駄菓子屋ミル」、「千歳市イロイロリビングマルシェ」で行った。

令和4年度

○学習・グループ活動事業

- ・有機農業についての勉強会



- ・野菜の保存方法についての勉強会



普及センターを講師に、有機認証制度や有機農業の特徴について勉強した。また、直売活動や乾燥野菜製造に向けた野菜の保存方法について勉強した。

○乾燥野菜の加工販売事業



販売しやすい単価とするため4人用のみだったのを、2人用を開発した。

○交流事業

- ・町内での野菜直売の実施



コロナ禍のため、地元での野菜直売を行った。

直売は、「セブンイレブン駐車場」、「牛小屋のアイス」、「三川ときどき市場」で行った。

- ・町内女性農業者とのランチ交流会



新規会員の獲得を目指し、町内若手女性農業者とのランチ交流会を3回実施し、会員外の農業女性8名との交流を行った。

- ・ 南幌町の農業関係団体「農猿」と交流会



組織体制やイベントの実施方法等について情報交換を行った。

- ・ クリスマスパティー



子供向けに、食育をテーマに「食育絵本読み聞かせ」、「トラクター展示」、「おやさいクイズラリー」などの企画を行い、町内外から 162 名の参加があった。

(3) 活動への委員会の助言と反映状況

① 委員会からの主な助言内容

- ・ すべて自分たちでやらずに地域力を借りてはどうか。
- ・ 「40 歳定年制」や「農家限定」について、メンバーが減少していることから見直してはどうか。
- ・ 乾燥野菜の製造について、効率的に行い、一部のメンバーに負担がかからないようにしたほうがよいのでは。

② 委員会の助言の反映及び効果

- ・ 「すべて自分たちでやらずに地域力を借りるように」との助言を受け、Xmas パーティーでは、商工会や町内外の飲食店等から応援や出店を得ることができた。
- ・ 「40 歳定年制」や「農家限定」について見直すよう助言を受け、組織体制について検討し始めている。
- ・ 乾燥野菜について、助言を受け、原価計算や負担軽減のための検討などを行うことができた。

(4) 目標の達成状況

活動計画に明記した目標（数値・定性）の達成状況を以下に示す。

目標（数値・定性）	目標の達成状況
<p>1 学習・グループ活動事業</p> <p>町外から嫁いできた女性が、地域の魅力を認識し地域に溶け込むための活動を行うとともに、地域の食の伝統の継承を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域作りと乾燥野菜の製造販売をテーマにした先進地視察研修を実施した。(H30) ・ 農薬についての勉強会を行った。(H30) ・ 野菜に関する情勢調査、野菜の販売、農業生産工程管理をテーマにした先進地視察研修を実施した。(R1) ・ 乾燥野菜製造に係るHACCPの勉強会を実施した。(R1) ・ 味噌加工実習を実施した。(R1) ・ スマート農業機器操作体験研修会を実施した。(R3) ・ 野菜の保存方法についての勉強会を行った。(R4) ・ 有機農業についての勉強会を行った。(R4) ・ 農家の嫁としての加工や営業への取組と有機栽培についての視察研修会を実施した。(R4) ・ SNSを活用した農産物のブランディングや、フォロワーを増やすための視察研修会を実施した。(R4)
<p>2 乾燥野菜加工販売事業</p> <p>生産した野菜の有効活用、由仁町の特産品としての商品を目指した乾燥野菜の販売、商品の改善、販売促進の取組を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乾燥野菜の製造・販売を行った。(H30、R1、R2、R3、R4) ・ 「食のブランド・ステップアップ相談会 in 空知」に参加し、パッケージ等の改良を検討した。(H30) ・ HACCPに準じた製造マニュアルを作成した。(H30～R1) ・ 乾燥野菜の製造原価を計算した。(R1) ・ ワークショップ形式で作業の効率化や商品の改善について検討を行った。(R3) ・ 会員の負担軽減を目指し、4品目から「スープ用」のみに品目数を絞った。(R3)また、販売しやすい単価とするため4人用のみだったのを、2人用の製造を行った。(R4) ・ 製造技術の平準化や新規会員への伝承に取り組んだ。(R4)

<p>3 交流事業</p> <p>野菜の直販を通して消費者交流を図る。魅力あふれる地域づくりにつながるイベントとして「クリスマスイベント」を開催する。SNSを活用して、地域の魅力を発信していく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜の直販活動を実施した。(R1、R2、R3、R4) ・ クリスマスパティーを実施した。(R1、R4) ・ 新規会員の獲得を目指し、町内若手女性農業者とのランチ交流会を3回実施し、会員外の農業女性8名との交流を行った。(R4) ・ 南幌町の農業関係団体「農猿」と交流会を実施し、組織体制やイベントの実施方法等について情報交換を行った。(R4)
--	--

2 由仁地区の活動の評価について

当該地区の活動を、(1) 活動の状況、(2) 活動への支援体制、(3) ふる水事業の目的(趣旨)達成の可能性という3つの視点に基づき評価する。

(1) 活動の状況

本地区の主な活動内容は、地域・農業への理解を深め、仲間づくりを行うことで地域の活性化に貢献することであった。

学習・グループ活動事業については、野菜に関する情勢調査や加工販売をテーマにした先進地視察研修を行うなど、様々な勉強会・研修会を実施し、地域・農業への理解を深めることが出来た。また、味噌加工実習を実施し、地域の食の伝統の継承に向けた活動を行った。活動を紹介するためのパンフレットを作成し、町内新規成婚者や関係機関に配布するとともに、SNSを利用しグループの活動や、農作業の様子を発信するなど積極的に活動のアピールを行った。

乾燥野菜加工販売事業については、ワークショップ形式で製造マニュアルの作成、改善、作業の効率化や商品の改善について検討を行い、品目数を絞りつつ、販売しやすい単価とするため4人用のみだったのを2人用も製造するなど、会員の作業に対する負担の軽減を図っている。

交流事業については、野菜の直販活動を実施し消費者との交流を図った。クリスマスパーティーについては、新型コロナウイルスの影響で、R2、R3は開催することが出来なかったものの、R1、R4には町内外の親子連れが多数参加し地域の活性化に寄与したと思われる。また、町内若手女性農業者と交流会を行うなど、会員外の農業女性と交流を深め新規会員確保のための取組を行った。

(2) 活動への支援体制

由仁町は、野菜の直売活動、クリスマスパーティーについて後援した。野菜の販売活動の際は、庁舎内でも実施させてくれた。また、クリスマスパーティーでは、開催施設利用料の割引を行った。

そらち南農協は、クリスマスパーティー開催の際に、イベント景品と協賛金の提供をいただいた。

(3) ふる水事業の目的（趣旨）の達成の可能性

地域の若手女性農業者団体「WEAVE」による活動は、地域・農業への理解を深めるための勉強会・研修会を通じて会員同士の結び付けを深め、野菜の直販活動やクリスマスパーティーなどの交流事業を実施したことにより、町内外の活発な交流を進めたことは、今後の地域活性化につながる取組であったと評価できる。

また、乾燥野菜加工販売事業については毎年度、販売品目の見直しや、製造マニュアルの改善を行っているが、メンバーの負担軽減と効率化が求められており、次年度以降の課題であるとも言える。

一方、新規会員の獲得、会員数の減少については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で人と人との直接的な交流が妨げられたことから、ある程度やむを得ない結果ともいえるが、次年度以降に規約の改正に向けて取り組んでいることは、期待できる取組として評価できる。

本事業終了後も、他農業者との交流や情報交換を含め、学習・グループ活動事業、交流事業を継続し、目標である乾燥野菜の販売などを通じて活動の持続化を図り、メンバーの生きがいの創造を進め、仲間の拡大を促進することで地域の活性化が図られることを期待するものである。

令和4年度 地域づくり研修会 アンケート集計

Q1・Q2 性別・年齢

	男性	女性	合計
～20代	5	0	5
30代	2	1	3
40代	8	3	11
50代	9	1	10
60代	4	7	11
70代～	3	2	5
合計	31	14	45

※無回答 2

Q3 講演の内容はいかがでしたか？

	回答数	割合
大変よかった	25	54.35%
よかった	19	41.30%
普通	1	2.17%
あまりよくなかった	0	0.00%
よくなかった	1	2.17%
合計	46	100.00%

※無回答 1

Q4 パネルディスカッションの内容はいかがでしたか？

	回答数	割合
大変よかった	29	65.91%
よかった	14	31.82%
普通	0	0.00%
あまりよくなかった	1	2.27%
よくなかった	0	0.00%
合計	44	100.00%

※無回答 3

Q5 今回の講演に対する感想を自由にご記入下さい。

- ・「地域活動の継承について考える」はとても参考になりました。2度目でしたので・・・
- ・大変勉強になりました。我が町に何が出来るかと考えたときに若い人たちの力が必須。
- ・声も聞き取りやすく、スムーズな進行で大変良かったです。
- ・北海道町村で一番の悩みは過疎問題である。若手の減少をどう食い止めることのヒントが得られたこと。今後地域外との交流が大切ですね。
- ・前に一度聞いていましたが・・・この先、未来をしっかり見てる方。地域を守って下さるような思いが伝わってきます。これからも頑張り続けてほしいです。
- ・それぞれの活動には家族の協力がなければ出来ないのではないかと思います。家族の思いを聞いてみたいと思う。
- ・30代の2人の勢いが素晴らしいです。彼らを中心とした、町おこしや、食育活動・今後の活動になるのだろうと思う。ボランティアではダメ何だと思う。たくさん学びました。大変いいパネルディスカッションでした。ありがとうございました。
- ・こういう雰囲気！！久しぶりでとても良かったです。リモートでは味わえない直接お話を聴けることは、とても良いです。
- ・地域で活動している、積極的な取り組みをしている事例をたくさん聞いて、勉強になりました。思ったことを行動に移すことが、素晴らしいと感じました。
- ・大変有意義であった。
- ・人を巻き込みながらどうやっていくか、考えるきっかけになった。自分の立場でどう関わられるか考えたい。
- ・30～40才の若い人たちの話を聞き、私たちの町にもたくさんしてほしいし、応援したいです。人口減少はどこも身降りかかっています。
- ・自然体での意見大変ためになりました。
- ・西氏の20代からの活動、想いをお聞かせいただき、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・3名の方、みなさんそれぞれが話が上手く、面白い話でとても良かったです。最初は「カタイ」内容だと思ってましたが楽しく講演が聴けました。
- ・地域で実際に頑張っている実践者たちが、道内でネットワークとしてつながって、北海道を盛り立てていってくれたら良いのではないかと。このような関係づくりも意識して研修会を有効に使うことも必要と考える。

- ・それぞれの町の地域おこしの形がとても参考になりました。
- ・各々の活動は地域の特性を生かした報告であった。地域全体、町全体の活性化に波及されるか今後楽しみです。参考になった。
- ・尾崎さん、城地さん最高。とても良かったです。
- ・西さんの熱い思いが伝わりました。自分は同じ町に住んでいて、何も手伝えなく残念に思っております。今後、頑張りたいです。
- ・地域愛を感じ大変有意義な研修会でした。若い力、仲間作り、仕事をするに当たり、いろいろな方々と携わることで幅が広がっていく。ボランティアを止めて儲けることにする。
- ・若い世代(30代)で活動している方々の話が聞いて良かった。・熱い想いを聞いて良かった。・地域活動だけではなく、職場の若手を育てるヒントにもなった。
- ・苦前といえば風車のイメージしかありませんでしたが、まちを維持するために、情熱的に取り組まれていることが分かりました。
- ・人口減の中で苦勞されている中、町を良くしようとする気持ちが伝わって良かった。
- ・地域の課題はどの町にも共通するものがあり、そこに目を向けて活動している人もいて、さらにそれぞれの考え方、活動のやり方を聞いて勉強になった。
- ・パネルディスカッションが良かったと思います。
- ・地域に若い力が育っているのを見せていただきうれしく思いました。・自分たちの地域の中で楽しむことが大事だ(祭りなど)。西さんのお話しされた、「どれが必要かを考える」ことは、とても大切だと思いました。
- ・地域作りを実践している方々の、生の声が聞いて非常に参考になりました。私は行政という立場上、堅い考えを持つことが多いですが、当市の市民にも積極的に皆様のような考えを持ち発信、実践していただけるような環境作りを検討していきたいと感じました。行うだけではなく、やめることも地域活性には必要であることについては、非常に共感できました。
- ・熱量の高いパネラーの話は大変刺激になった。著作権の問題がなければ、動画をDVD化して欲しい。(音声のみのCDでも可)
- ・特に耕作放棄地の利活用についての質問で必ずしも利活用しなければならないものではないと回答された部分は、少子高齢化の時代には当然の回答なのに地域づくりを題した講演等では余り聞いたことがなかったので、非常に興味深かったです。
- ・それぞれが自分の個性を活かした特徴ある活動をされているのが面白かったです。相手の個性を見極め、活躍してもらえ役割を任せるのが効果的だと再認識しました。
- ・自分にはない視点や価値観、発想などを知るいい機会となりました。
- ・他町村の取り組みについて知る機会ができ、参考になった。

**Q6 その他、お気づきの点や今後、地域づくり研修会で取り上げてほしい
テーマ・内容などがありましたら、ご記入ください。**

- ・会場が狭かった。コロナ禍で大丈夫？主催者は考えていたのか。もう少し広い部屋はなかったのか？
- ・時間厳守
- ・心強い若い力を、久しぶりに感じました。熱いですね～。本当に、心から応援したいです。とことん、引っ張ってほしいです。調子に乗っても良いんじゃないですか。
- ・他の地域の若い新しい取り組みをしている人たちの活動を聞いてみたい。
- ・キーワードいただきました！
- ・開発局です。彼らの活動はとても参考になります。今後ともよろしくお願いします。
- ・ありがとうございました。
- ・人口減少や高齢化、後継者不足などで、農村のコミュニティが衰退する中、少ない実践者でどう農村を維持、活性化するか、人作りや関係づくりなどに関するテーマが、全道の現状と課題に参考になるのではないかと。
- ・仲間づくりについて、いろいろな方法があることが今回理解できました。今後失敗談も聞きたいと思います。

- ・地域活動の継承という難しいテーマに対して、様々な意見を拝聴させていただき大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・3人のパネリストの苦勞を聞いて大変有意義であった。又、この様な研修会を行ってほしい。
- ・若者についてのお話が良いのでは。
- ・全道は広いと感じました。日本海側は大きな町がないということを知りました。・全道のいろいろな活動が聞けるのはとても勉強になりました。今後も若い人の感覚を聞いてみたいです。・1人くらい女の人が入っていても面白かったのでは？
- ・この時期のJRは融雪などで運休しやすいため、Web会議は助かります。
- ・来年も期待しています。
- ・パネルディスカッションも誰にもわかり易く、アットホームな雰囲気の中でのお話でしたので大変ためになりました。ご案内いただきありがとうございました。
- ・ディスカッション中、尾崎さんがマイクを持たずにお話をされる場面がありました。もともと声の大きい方で、ある程度は聞こえましたが、やはりzoomでは聞き取りづらくなってしまうので、マイクの使用はお願いした方が良くと思います。